



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 10

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」サイト (nantokashinakya.jp/)では、東日本大震災の被災地を支援しているプロジェクトメンバーの活動状況について紹介しています。

PROFILE

1972年東京都出身。3歳の時に交通事故で両足に障害を負う。高校生でチェアスキーと出会い、競技生活を開始。1998年長野パラリンピックで、冬季パラリンピックでは日本人初の金メダル(滑降)を獲得。2006年トリノパラリンピックでも金メダル(大回転)を獲得し、2010年9月に現役引退。現在は後進の指導に当たりながら、スポーツを取り巻く社会環境の改善、ユニバーサルデザインの普及などの社会貢献活動にも取り組む。「なんとかしなきゃ! プロジェクト」著名人メンバー。



グレース(右)と交流する大日方さん © 堀切功

人々と寄り添う国際協力

チェアスキーヤー 大日方 邦子

OBINATA Kuniko

2010年3月のバンクーバーパラリンピックに出場した後、競技生活をひと区切りしようかと悩んでいた時でした。世界中のパラリンピック選手が集まるワークショップに参加することになり、これまでほとんど話をする機会がなかったアジアやアフリカの選手たちと出会ったのです。

欧米と比べると日本の練習環境も決して良いとはいえないのですが、彼らと言葉を交わす中で「どうやら私たちが置かれている状況とまったく違うぞ」と一。そこで初めて、これまであまり身近でなかった“開発途上国”と呼ばれる国々、その土地に暮らす人々のことを、もっと知りたい、知らなければならないという思いが強くなったのです。

とはいえ、私は国際協力のイロハも知りません。でもだからこそ、皆さんと同じ目線で学び、現場で感じたことを伝えることができるのではないかと思います。「なんとかしなきゃ! プロジェ

クト」に参加することになりました。これまでたくさんの方に応援していただいた分、何らかの形でお返しをしたという気持ちもあったのです。

そして今年3月、その活動の第一歩として、フィリピンを訪問しました。JICAが地方で実施している障害者支援プロジェクトの視察だったのですが、現地ではできるだけ“日常”が見たいとお願いをしました。フィリピンの障害者の方とたくさん話をし、私自身の経験も共有しながら、彼らと仲良くなりましたからです。

1週間の滞在は、本当に驚きの連続でした。特に印象に残っているのが、筋ジストロフィーを患っているグレースとの出会いです。彼女は敬虔なクリスチャンにもかかわらず、足が不自由でずっと教会にお祈りに行くことができなかった。でもその日、JICA 専門家の方の働きかけで彼女が10年ぶりに教会に行くと聞き、私も同行させていただくことができました。

久々に友人とも再会できたその日から、グレースは大きく変わっていったんです。それまでシャイでうつむいてばかりだった彼女が、生き生きとした表情で、ワークショップでも真っ先に手をあげて質問をするようになった。現地の人々に寄り添い、そっと“変わる”きっかけを与えていくこと一。それこそ私がフィリピンで見た国際協力の姿でした。

何をするにも、その根底にあるのは“人を思いやる心”です。今大切なのは、私たちができることを一つずつやっていくこと。そうすれば、たくさんの思いやりがつながり、大きな力になっていくのではないのでしょうか。

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。詳しくはこちらから→ [なんとかしなきゃ.jp](http://nantokashinakya.jp)